

せすには帰れない 电脑版

島村洋子



Illustration / メグ・ホソキ

双葉社

イチローに挑戦！

連載ももう半年あまりになっていきなりお聞きするのもあれだが、この欄って誰か読んでるのだろうか。

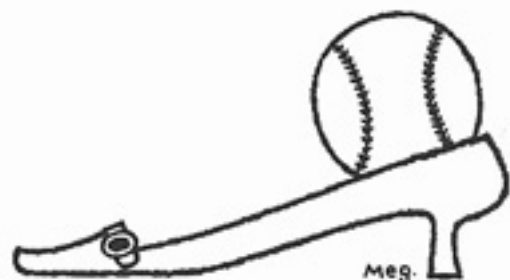
知り合いの何人かは読んでるようだが、どうなんだろう。

「双葉社のホームページは充実してるねえ」

などと私の聞こえないところで噂は広がっていたりするのだろうか。

みんな「お気に入り」のところに入れて更新されるのを待っていたりするのだろうか。

時々、「大人気のホームページ」とかいう特集を雑誌などで見かけた



りするけれど、そんな取材は殺到してないよなあ、どうですか、みなさん（不安な感じ……）。

さてさてホームページといえば「大阪モンロークラブ」という俳句のホームページは更新が無いので有名である。

これは某大広告代理店のS君が好意で無料で作ってくれているのだが、S君は有料の仕事が忙しく、彼いわく「社畜のように働いています」ということなので無理に更新をお願いできないのだ。

時々、句会もやっているのだが、俳句は短くて難しいな、と唐突に思
い、

「長いやりたい」

と言ったら、社長編集者のF嬢はあっさり、

「じゃ、短歌やりますかっ」

と言ったので、私は首を振ってあきらめた。

なんでもやすやすと受け入れてもらえるときは人間、一番やばいときである。

本当は私がやりたいのは野球である。

「じゃ、やりますか。ソフトボールチームでも。私もやりたかった」などとこれもまたのってくる人がいてちよつとやばい。

多分、今度のオリンピックは日本女子ソフトボールチームが金メダルを取ってきつとソフトボールブームがくるはずだ。

なんせこのモンロークラブには、

「宇津木さんと試合したことあります」

という猛者までいるのだ。

どんどん話が具体化するるので、私はパーティで会った「推理作家協会のイチロー」と呼ばれている真保裕一さんに、

「と言うわけで負けないから」

と宣戦布告だけしておいた。

「よし、じゃあやろうよ」

と真保さんは言ってくれたが、いつチームの形を成すかは未定である。

「俳句の次は野球したいんだけど」

という私の意見に、みんないやいやなずき、

「正岡子規は俳句と野球を二大命題としていましたしね」

などと言ってくれるのだが、はてさてどうなることやら。

【おまけ】

前々回の原稿を読んだカラオケ番長が、

「東京では牛鍋の最後に餅を入れたりします」

というとんでもないことをいつて来た。本当だろうか。

私が東京のことを何も知らないと思っただからかっているのだろうか。

それは四角い餅なのだろうか、多分。

私にとって四角い餅は「仕方なくスーパーで買ってしまった餅」で、家で食べる餅というのは頭の中でどう想像しても丸いのだ。

しかし丸い餅の欠点はのりが巻きにくいということと、あわててあん餅と間違えるおそれあり、の二点である。

カラオケ番長は、

「小学校のとき、勝鬨橋が開くのを遠足で見にきました」
などともいう。本当かな。

きつと徳川家康が幕府を開いたときも遠足で見に行ったのだろう。
マツカーサーが第一生命ビルに入ったのも見てると思うな。

【著者略歴】

島村洋子（しまむら ようこ）

1964年、大阪市生まれ。帝塚山学院短期大学を卒業後、証券会社勤務などを経て、1985年にコバルト・ノベル大賞を受賞し、小説家としてデビュー。主な著書は『せすには帰れない』『家ではしたくない』『へるもんじゃなし』等のエッセイの他、『王子様、いただきっ！』『てなもんやシェークスピア』『色ざんげ』『恋愛のすべて。』など多数。弊社より12月7日に刊行された『メロメロ』も絶賛発売中。